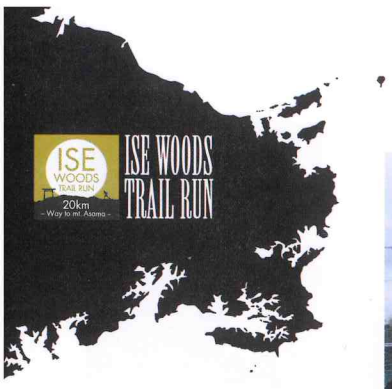

8時30分、三重県営陸上競技場の脇からスタート。少し走ればすぐにおはらい町通りに入り、そこを含め2.3㎞のロード後にトレイルに入る。

大会の雰囲気作りにもこだわった伊勢の森。参加賞は伊勢稲作学校において生産した減農薬米「神楽の米」、ミネラルウォーター、伊勢朝熊岳金剛證寺の御守り。選手のゼッケンには生成り色を使い、プログラムやロゴも細かくていねいに作り込まれている。

早朝、店のオープン準備をしながら地元の方々が見送ってくれる中、おはらい町通りを駆け抜ける選手たち。日中は観光客でにぎわうこの通りをスタート直後に走り抜ける爽快感からレースは幕を開ける。内宮手前で折り返してきた選手とすれ違うのはレースプロデューサー石川弘樹さんの演出だろう。通常レースだとスタート後に仲間と会うチャンスが少ない中、ここでは声を掛け合える。

約2㎞のロード後にトレイルに入り、じわじわと登っていき、経ヶ峰、朝熊山、八大龍王を越え、後はゴールまで下り基調が続く。前半5㎞までは空が開けたわりと広めのトレイルで、その先の宇治岳道にはもみじの葉でフカフカな場所もあり、伊勢の森の自然を満喫できる区間だった。伊勢志摩国立公園内にある金剛證寺に続くこの登山道は、その昔〝蟻の岳道〟と言われるほど大勢の人で賑わう道でもあった。今はひっそりしているが、踏み固められたトレイルや無造作に転がる道脇の苔色の石柱などに、そこに刻まれた歴史をかすかに感じることができる。

中盤の朝熊山山頂展望台周辺やパラグライダーランディング

早朝のおはらい町通りを駆け抜ける爽快感で幕を開けるレース。